



大学教育再生加速プログラム

アクティブ・ラーニングによる主体的学びの向上と ディプロマ・ポリシー達成度の可視化

京都光華女子大学短期大学部
ライフデザイン学科

*Koka's Heart**

アクティブラーニングの活性化: 正課

多様な分野へのALの展開

オンラインAL
(2020年度)

学生提案型授業

究極のAL

「学生が創る『地域』」

・学生提案型授業の端緒

「学生が創る『学び』」

・授業を学生が準備、学生に対して学生が授業

「ライフ創彩」

・シラバスの学生公募制

プレゼン演習(1年前期必修)

前半

目的: プレゼンは難しいという先入観の除去

方法: アイスブレイク

徐々に聴き手を増やすミニプレゼン

(1対1⇒1対3⇒1対5⇒・・・)

* 聴き手のコツの伝授

後半

目的: 問題は教科書にあり答えも教科書にある

→問題は現実^にあり、答えは自分たちで見つけるしかない

方法: (1) プレゼンと企画立案の統合

(2) 徹底した課題のリアルさの追求

(3) 本格的なプレゼン大会

(4) 授業後も継続する課題

(5) 多様な学生に対応するための複数担当制/SA導入

- ・社会人基礎力を育成する授業30選
- ・社会人基礎力育成グランプリ2014準大賞

・・・学生としての興味や探究心をベースにおいた素晴らしい活動。・・・(中略)・・・2年という短い期間で学業を修了する短期大学のモデルにもなる取組であると評価できる。(「社会人基礎力育成グランプリ2014受賞のポイントより」)

ALM制度

目的: 能力に応じて→必要に応じて

教員のALスキルアップ

→プレゼン演習でのOJT

学科としての効果的・効率的なALの導入

→内容+教育手法(AL等)からのカリキュラムの体系化

アクティブラーニングの活性化: 正課外活動

学生の主体的学びの向上

従来 正課外活動(自己教育)の役割
・学生の学生による学生のための教育

現在へ継承

3つの方針

①新たな活動の場の創出

新たな領域や新たな形態での多様な取組

②教職員の適切な関与

学生・教職共同の運営体制

③学生の主体性尊重

あくまでも学生の主体性を活性化させるという観点を堅持

全学生へのアクティビティの波及効果

→学生リーダー組織: D'*Light

- ・2割の学生を組織
- ・学科内企画での活躍
- ・独自の活動

多様な場

学科内企画

- ・マンスリーイベント
- ・オープンキャンパス学生リーダー

ピア活動

- ・ピアサポーター
- ・スチューデントアシスタント

大学間連携による学生の主体的学びの場の創造

短大フォーラム

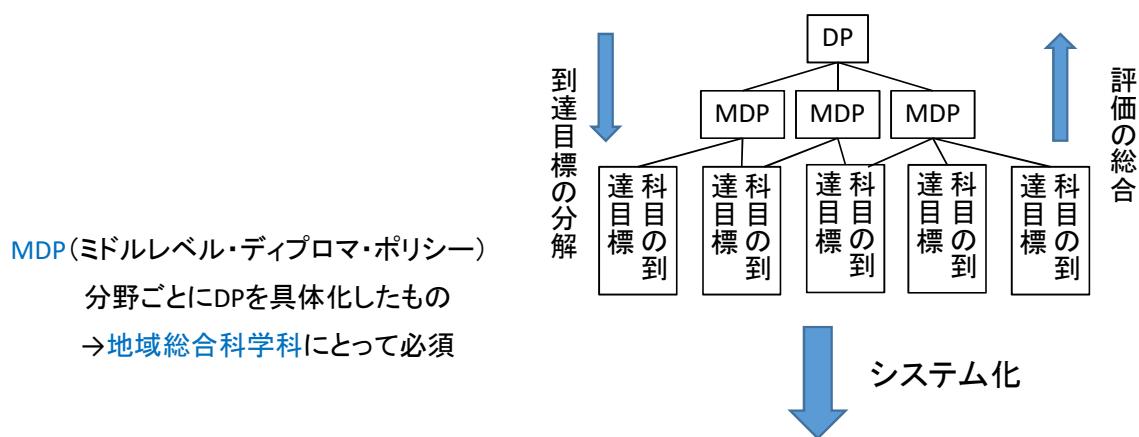
- ・2017年度、松商短大、愛知文教短大、香蘭女子短大、本学の共催のもとに創設
- ・以降、会場校を変更しながら継続

オンライン開催
(2020年度)



学修成果の可視化ー標準モデルー

DPを核とした可視化システムの標準モデルの1つ



MDP(ミドルレベル・ディプロマ・ポリシー)
分野ごとにDPを具体化したもの
→地域総合科学科にとって必須

- ・DPと結びついているのは科目ではなく**科目到達目標**
- ・「何ができるようになったか」と直接関係しているのは、科目の素点ではなく、**科目到達目標の達成度**

↓
可視化の最も基礎的指標は**科目到達目標の達成度**

→目標体系と評価体系の整合性確保



- ・学生
- ・教員
- ・教育改革(到達目標／評価体系の改善)

留意点

- ・外部指標との相関分析による**客観性の担保**
- ・長期的学修成果の可視化による補完:**卒業生／企業インタビュー**

学修成果の可視化ー可視化から教育改革へー

到達目標／評価体系の改善のPDCAサイクル

・難問： 到達目標／評価体系自体をどう評価するか？

⇒DP各項目が独立した評価項目として機能しているか

数値目標： DP各項目の達成度間の相関係数 < 0.6

⇒Me-Lの構築により、到達目標／評価体系の評価を数値的指標に基づき行うことが可能に

改革と相関係数の変化

	DP1	DP2	DP3
DP1		.89	.87
DP2			.87

2015年度



・MDPの改良
・CMの改良

2016年度



	DP1	DP2	DP3
DP1		.63	.83
DP2			.77

2017年度



・科目到達目標
の改良
・シラバスに教育
手法の項目追
加

2018年度



	DP1	DP2	DP3
DP1		?	
DP2		?	

2019年度
(次年度分析)

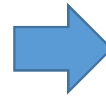
学修成果の可視化—DPの全体的評価—

Me-LによるDP達成度評価

- ⇒分析的評価
- ・DPの各項目を約140の要素の平均として評価



不得意な課題
ex. 突出した特徴を拾い出す



DP達成度の全体的評価の併用

- ・DPを分解せずに直接評価
- ⇒分析的方法と相補的な関係



ポートフォリオ・システム

ポートフォリオを用いたDP達成度評価のプロセス

目標設定

- ・目標設定シート
- ・目標をDPと関連させた「深い目標」へ



ポートフォリオ編集

- ・写真を目標(=DP)達成のエビデンスとして収集・編集

⇒ポートフォリオ

- ①目標
- ②エビデンス
- ③自己評価



発表

- ・3~4人のグループで発表
- ・相互評価



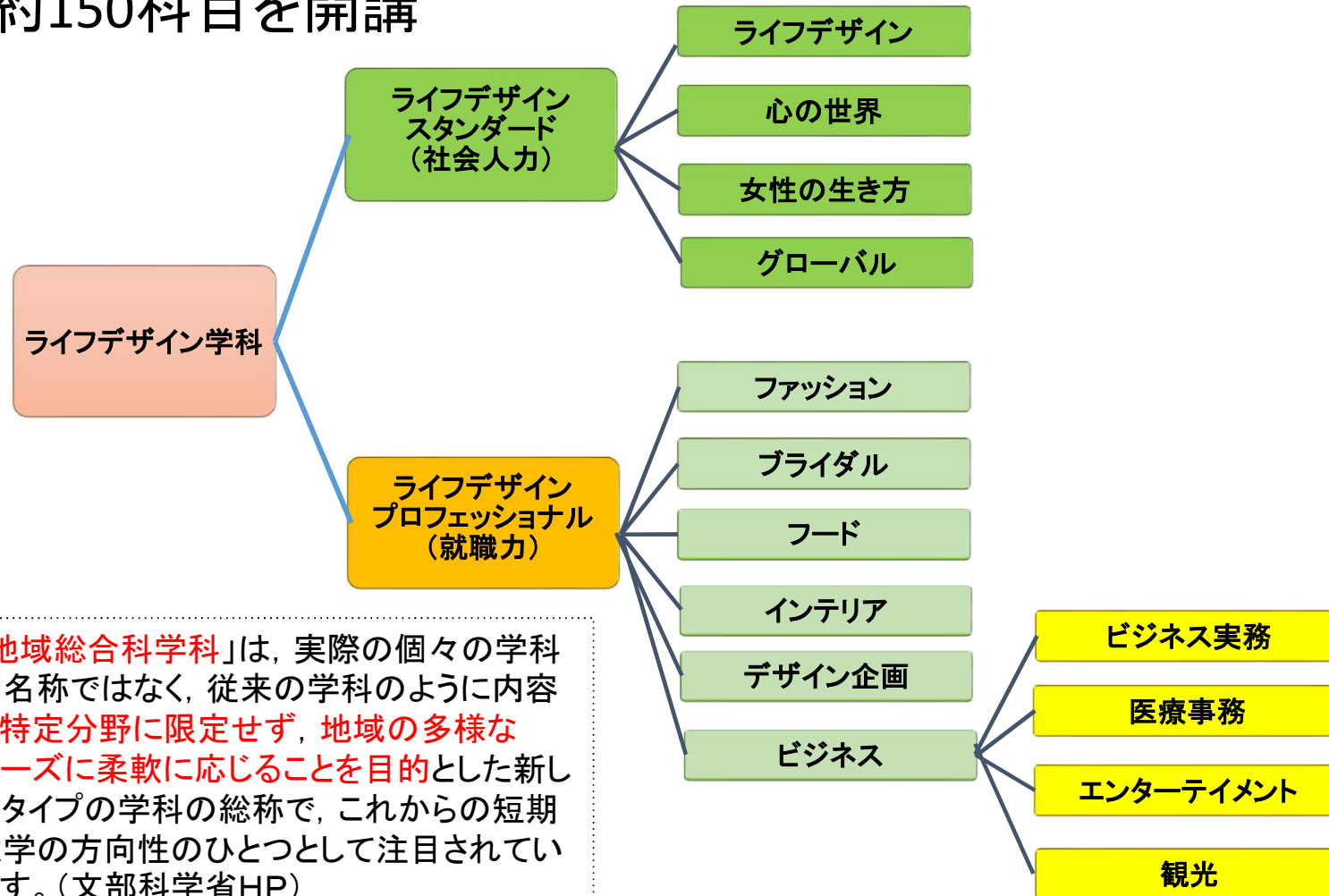
評価・ふりかえり

- ・教員評価
- ・DPの理解度と達成度のふりかえり(DPルーブリック)
- ・新たな目標設定

補足資料

ライフデザイン学科の学びの特徴

夢を実現するための**2つの力**を身につける
約150科目を開講



「地域総合科学科」は、実際の個々の学科の名称ではなく、従来の学科のように内容を特定分野に限定せず、地域の多様なニーズに柔軟に応じることを目的とした新しいタイプの学科の総称で、これからの短期大学の方向性のひとつとして注目されています。(文部科学省HP)

目次

1. AP以前の教育改革の状況
2. APによる教育改革
 2. 1 アクティブ・ラーニングの活性化
 - ・プレゼン演習から全体へ
 - ・学生提案型授業
 - ・アクティブ・ラーニング・マスター制度
 - ・正課外活動の活性化
 2. 2 学修成果の可視化
 - ・ディプロマ・ポリシーを核とした可視化
 - ・総合的評価提示システム
 - ・外部の社会人基礎力テスト
 - ・ロングレンジでの可視化
 - ・可視化の取組より得られた知見・ノウハウ
 - ・より重層的な可視化へ
 2. 3 高大接続改革へ
3. 全国的な協力関係

本学の教育改革の目標—AP以前—

初等教育に学ぶ

すべてのこどもに基礎学力を



すべての学生に社会人基礎力を

- ・教育体系
到達目標型教育
- ・学習者の主体性のサポート
ポートフォリオ
- ・教育計画の策定
教員の集团的討議

GPに学ぶ

- ・入学前教育
「学生と教員の幸せな出会いをめざす導入教育」
同志社大、07年度特色GP
- ・カリキュラム・マップ
「目標達成型大学教育改善プログラム」
山口大、08年度教育GP
- ・eポートフォリオ
「学ぶ意欲を引き出すための教育実践—KITポートフォリオシステムを活用した目標づくり—」
金沢工大、06年度特色GP

AP以前:これまでの取組

(1) 地域総合科学科として地域の多様なニーズに応える学科へ

- ・地域社会のニーズに応えるため幅広い専門分野の整備
- ・建学の精神「思いやりの心」→地域貢献
- ・地域に根差した「地(知)の拠点」へ

「地域総合科学科」は、実際の個々の学科の名称ではなく、従来の学科のように内容を特定分野に限定せず、地域の多様なニーズに柔軟に応じることを目的とした新しいタイプの学科の総称で、これからの短期大学の方向性のひとつとして注目されています。

(文部科学省HPより)

(2) 「何を教えるか」から「何ができるようになるか」への転換

- ・ディプロマポリシー、カリキュラムマップ・・・
- ・社会人基礎力の育成の重視(コンピテンシーでは四大生に負けない、コンピテンシーは教育可能)

“基礎”は“ベーシック”でなく“エッセンシャル”の意味

- ・学生の学びをサポートするシステム:短大ポートフォリオ

AP直前：課題と改革構想

課題

- ・(1)で展開した幅広いカリキュラム体系を、(2)で示した主体的な学びをより重視する方向にいかにして合わせていくか
 - アクティブな学びの導入
- ・学修成果の可視化が不十分 → ディプロマポリシーの達成度の定量的評価

改革構想

地域総合科学科として地域社会の多様なニーズに応えられる短期大学を目指す

⇒ AP事業(改革構想の核)

- (1) 地域社会が求める人格と教養に優れ、社会人基礎力に秀でた専門的能力も兼ね備えた人材を送り出すために、幅広い専門領域を抱える地域総合科学科にふさわしい**アクティブ・ラーニング**の学習プログラムを開発し実施
- (2) 地域総合科学科に適合した**学修成果可視化システム**の導入

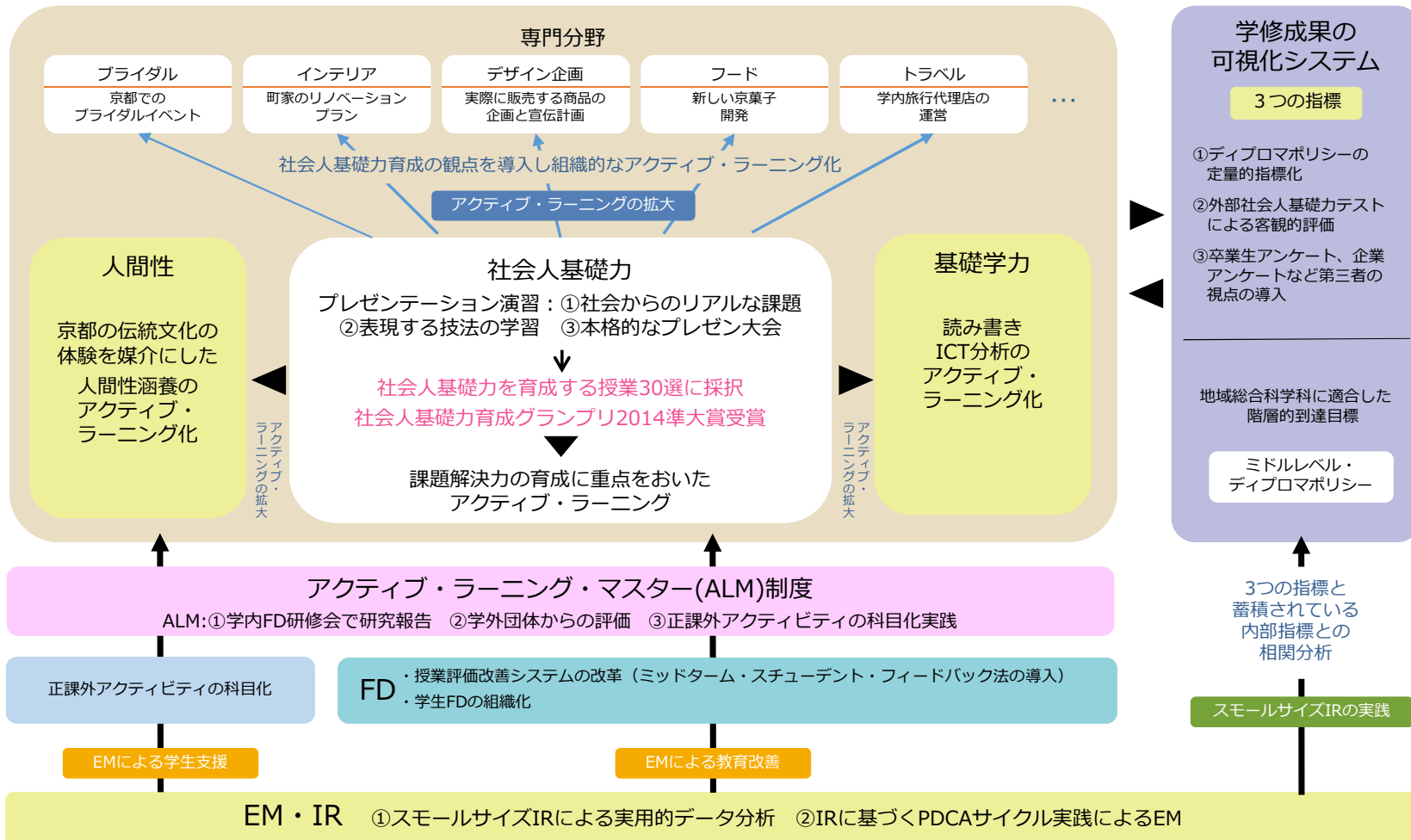
本学AP事業

- アクティブラーニングの活性化
- 学修成果の可視化－3つの柱－
 - ディプロマポリシーを核とした可視化
 - 外部の社会人基礎力テスト
 - 卒業生による評価－卒業生インタビュー

本学AP事業の全体像

本事業の目的

- ①地域総合科学科に適合したアクティブ・ラーニングの活性化 ②地域総合科学科に適合した学修成果可視化システムの導入



アクティブラーニングの活性化

①プレゼンテーション演習からスタート

→社会人基礎力育成のための工夫を盛り込む

②プレゼンテーション演習の成果を各分野へ拡大

→ワークショップなどを通じて実践例や課題を共有

専任教員全員がH28年の授業からアクティブラーニングを実践

③アクティブラーニング・マスター制度でアクティブラーニングの活性化を保障

→『個人レベル』の制度と『組織レベル』の制度を導入しアクティブラーニングの質向上を目指す

④正課外活動の組織化

→学生の主体的学びを活性化する場として正課外活動を重視

プレゼン演習：社会人基礎力育成のための工夫

(1) プレゼンと企画立案の統合

プレゼンのスキル習得だけでは自分の意見を押し通すだけのそれ自体が目的化されたプレゼンカになりかねない

「企画の実現」という目的と融合させ、「チームで働く力」の要素としてのプレゼンカを育成している

(2) 徹底した課題のリアルさの追求

「考え抜く力」を育成するためには、まず、**学生の意識変革**が必要

「問題は教科書の中にあり、答えも教科書の中にある」という意識



「問題は現場にあり答えは自分たちで作り出すしかない」という意識へ

プレゼン演習：社会人基礎力育成のための工夫

(3) 本格的なプレゼン大会

本格的なプレゼン大会 (ex.「社会人基礎力育成グランプリ」) への参加は「前へ踏み出す力」を一気に加速→本格的な会場、一流の審査員

(4) 授業後も継続する課題

優秀な企画は、授業終了後も企業との連携を継続し商品開発に結実→リアルな達成感こそ「社会人基礎力」を総合的にアップさせる契機

(5) 多様な学生に対応するための複数担当制

1つの授業は1人の教員が責任を持つと誰が決めた！ →複数の教員、複数の学生スタッフの配置で全方位をカバー

社会人基礎力を育成する授業30選に選出

「プレゼンテーション演習」



↑
本学
鹿島先生

育成のための工夫

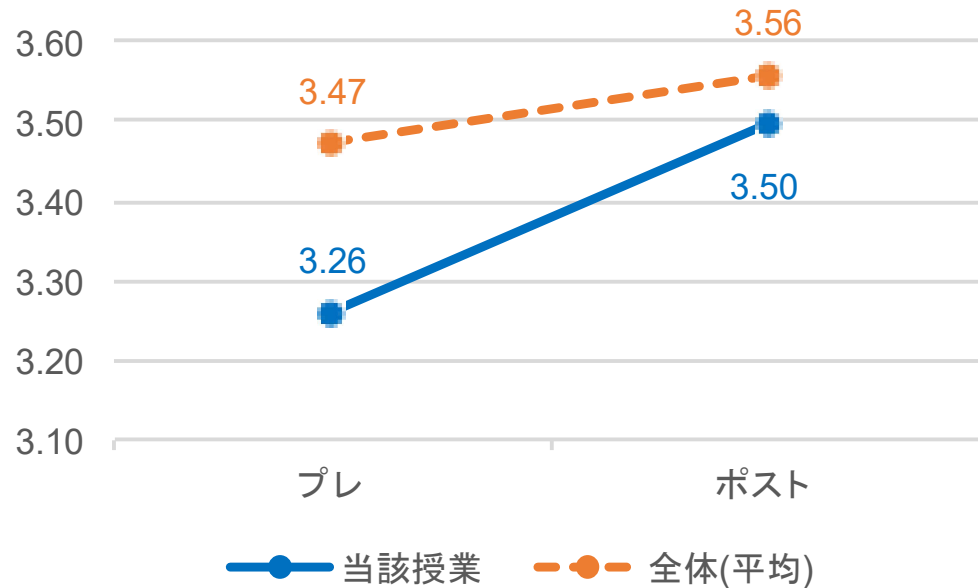
- (1) プレゼンと企画立案の統合
- (2) 徹底した課題のリアルさの追求
- (3) 本格的なプレゼン大会
- (4) 授業後も継続する課題
- (5) 多様な学生に対応するための複数担当制

「社会人基礎力を育成する授業30選」実践事例集(経済産業省)

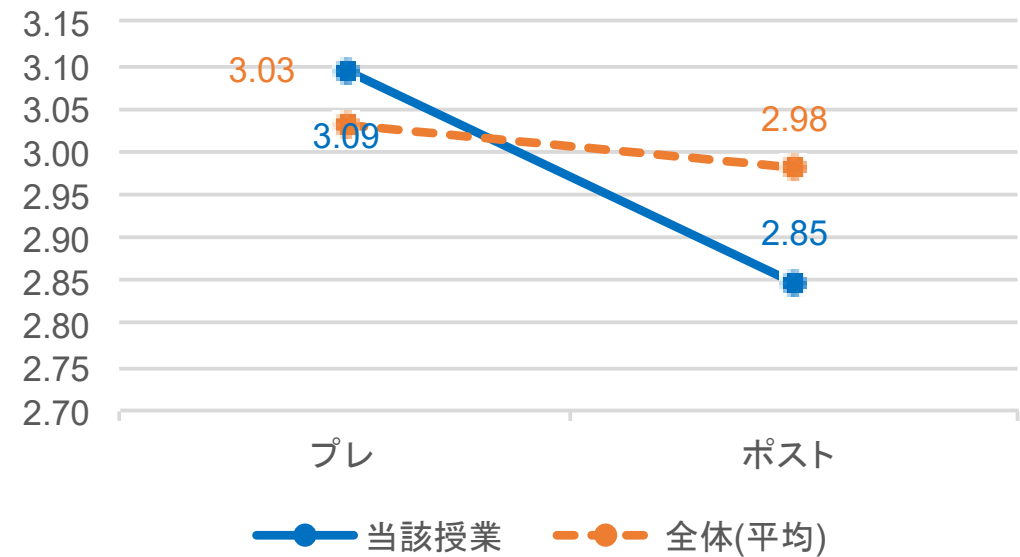
http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/25fy_chosa/Kiso_30sen_jireisyu.pdf

「プレゼンテーション演習」の成果

深い学習アプローチ



浅い学習アプローチ



○深い学習アプローチ

→学びを関連付ける主体的な理解

- ・できるかぎり他のテーマや他の授業の内容と関連させようとする
- ・新しい考えを理解するとき、それらを現実生活と結び付けようとする 等

○浅い学習アプローチ

→課題をただ「こなす」消極的・受動的な理解

- ・自分でテーマを考え抜かずに、教えられたことをただ受け取る
- ・よりよいやり方を考えずに、ただなんとなく学習してしまうことがよくある 等

大学教育学会課題研究「アクティブラーニング調査」
2015年度生（1年前期、プレゼンテーション演習のプレ・ポスト調査）

社会人基礎力育成グランプリへの参加

社会人基礎力育成グランプリ 受賞

社会人基礎力育成グランプリ2014
全国大会準大賞

社会人基礎力育成グランプリ2015
近畿地区大会準優秀賞

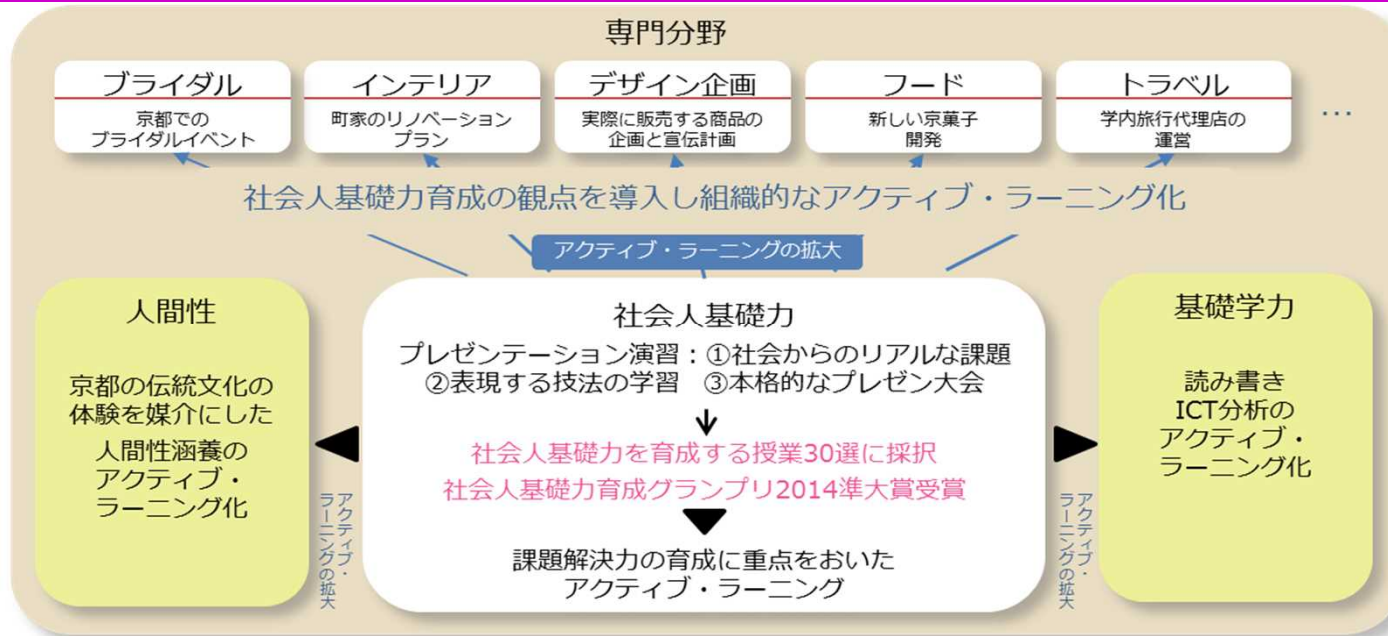
社会人基礎力育成グランプリ2016
近畿地区大会奨励賞

社会人基礎力育成グランプリ2017
近畿地区大会準優秀賞

社会人基礎力育成グランプリ2018
近畿地区大会奨励賞



他分野への展開



- 到達目標型教育への転換のためのアクティブラーニング
アクティブ・ラーニングの手法はわかっているが、
「必要に応じて」使いこなせているか？
* 必要 = 各科目の到達目標を達成するため

他分野への展開

学修成果から遡って授業を設計

学生が何ができるようになるのか？（目標）



どのような授業手法を用いるか？（方法）



どのように測定するのか？（評価）

目標－方法－評価の整合性

- ・目標＝ディプロマポリシー→科目の到達目標
 - ・方法＝アクティブラーニング
 - ・評価＝パフォーマンス評価，ルーブリックなど
- カリキュラム・マネジメントへ

他分野への展開（シラバスの改善）

▶ 授業テーマ	必須	プレゼンテーションの基本的な技法の習得	
▶ 授業の概要	必須	この授業ではプレゼンテーションの基本的な技法を修得することで、社会人として必要な「決められた時間で自分の考えや意見をわかりやすく伝える能力」の習得を目指す。また、相手の発言に対して要点をしっかりと理解し正しく批評・コメントできる能力の習得も求める。グループワークにおいては、自己の分析・評価を行い、グループ内での役割を見出し、グループに貢献することが必要となる。プレゼンテーション大会で取り扱う課題は学外の企業や団体、公的機関から広く募集する。テーマ決定後は課題提供者の意向を意識し課題の解決に取り組んでいく。	
到達目標1		その達成度を見る観点	その達成度を見るために用いる手法
▶ 入力	必須	▶ 入力	必須
プレゼンテーションの技法を正しく理解し活用することができる		プレゼンテーションの技法を正しく理解し活用することができる	授業内の課題への取り組み
到達目標2		その達成度を見る観点	その達成度を見るために用いる手法
▶ 入力	必須	▶ 入力	必須
制限時間内に自分の意見を述べ、他者の意見に質問することができる		制限時間内に自分の意見を述べ、他者の意見に質問することができる	授業内の課題への取り組み
到達目標3		その達成度を見る観点	その達成度を見るために用いる手法
▶ 入力	必須	▶ 入力	必須
グループの中で自分の役割を見つけ課題解決のために取り組むことができる		グループの中で自分の役割を見つけ課題解決のために取り組むことができる	「プレゼン大会」に取り組む姿勢と発表内容

学生提案型授業

学生が主体的に授業を行う「学生提案型授業」の開講

- ・学生がテーマを決め、学生が準備をし、学生が授業を行う
- ・ex.「学生が創る『地域』」(各県での地域活動)、「学生が創る『学び』」(マナー)



学生提案型授業の公募化

2017年9月に公募を開始、2018年度から開講

- ・科目名 … ライフ創彩
- ・方式 … 全学生からの公募制・選抜方式

アクティブラーニングマスター(ALM)制度の構築

・目的

- ①アクティブラーニングを、『能力に応じて』導入する段階から『必要に応じて』導入する段階へ高める
- ②内容のみならず、教授法のバランスも考慮した、カリキュラムの全面的体系化を行う



・制度構築の方向性

『個人レベル』の制度と『組織レベル』の制度の2つを一体化
組織の目標を常にスパイラルアップする仕組み

※個人のスキルを認定するような単純な制度ではない

正課外活動の位置づけ

学生の主体的学びの活性化対策

正課の
授業改革



学生の自己教育の場
正課外活動の活性化

EMの観点から重視

3つの方針

活動の場
創出

学生の主
体性尊重

学生と教職
共同形態

学生リーダー組織D'*Lightの活動



短大フォーラム(2017年3月)



京都市消防局とのコラボ(2018年11月)



学生FDサミット(2018年8月)



京都市とのコラボ:足湯(2019年5月)

学修成果の可視化－可視化の3つの柱－

①ディプロマポリシーを核とした可視化

ディプロマポリシーの達成度の定量化→学修成果の可視化の中心

②外部の社会人基礎力テスト(PROG)実施による評価の客観性の担保

社会人基礎力テストとディプロマポリシー達成度との相関： 評価の客観性

③ロングレンジでの学修成果の可視化：卒業生インタビューと企業インタビュー

可視化された長期的学修成果を教育改革へ反映

ディプロマ・ポリシーを核とした可視化

ミドルレベル・ディプロマポリシーの設定


- ・多様な分野から構成されている本学科における効果的な到達目標の設定
- ・従来の、学科で1セットのディプロマポリシーではどうしても全分野を考慮して平準なものとなり、各分野の特徴を取りこぼしの発生
- ・そこで、分野ごとに到達目標を設定。これを、ミドルレベルディプロマポリシー(MDP)と命名
- ・ディプロマポリシー(DP)→ミドルレベルディプロマポリシー(MDP)→科目の到達目標という階層的到達目標の体系

ミドルレベルディプロマポリシー(改良後の一例)

ブライダル分野

区分	ディプロマポリシー	ミドルレベルディプロマポリシー
DP1 こころ	思いやりの心を持って、学びの意欲を高めることができる	(1-1) 結婚式に関わるあらゆる人たちとのつながりを大切にし、結婚式に込められた思いに共感できる (1-2) ブライダルプロデュースを通じて、新郎新婦をサポートする喜びを知ることができる
DP2 教養	21世紀の教養を身につけ、広い視野と将来の見通しを持って社会とかかわることができる	(2-1) 婚礼の歴史と慣習について理解する (2-2) 21世紀におけるブライダルビジネスの課題を理解し、これからの可能性を考えることができる
DP3 人材	社会に生きる人材として、多様な知識や技術、感性を身につける	(3-1) 人生の一大イベントである結婚式をプロデュースするための知識と技術を身につける (3-2) ブライダルビジネスで必要とされるコミュニケーション能力、企画提案力を身につける

到達目標型教育実現のための3つの可視化

何のための可視化？  到達目標型教育(学生が何ができるようになるかを中心)への転換を加速

そのために必要な3つの可視化

①科目の到達目標の達成度の可視化:

最終評価だけでは先に進めない

②学生の到達目標達成度の自己評価の可視化:

学生が何ができるようになったと自覚しているかが大事

③ディプロマポリシー・ミドルレベルディプロマポリシーの達成度の可視化:

DP、MDPを「お飾り」から現実的目標へ転化

 **総合的評価提示システム**

ディプロマ・ポリシーを核とした可視化

総合的評価提示システムの導入ー評価の3つの拡大ー

・以下の3つの評価の拡大を行う

- ①点数だけでなく**各科目の到達目標の達成度**も評価
- ②教員による評価と**学生による自己評価**を併記
- ③科目だけでなく、**ディプロマポリシー、ミドルレベル・ディプロマポリシー**も評価

総合的評価提示システムの概念図

ディプロマポリシー

ライフデザイン学科

1. カリキュラムの多面的な履修を通して、豊かな人間形成をおこない、幅広く深い現代的教養を身につける
2. 体系的な学習を通して、現代の多様な課題を見つけ、問題を解決する判断力を身につける
3. 自らの人生の目標に向かって努力し、実践できる人材となる
4. 社会の変化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
5. 自らの立場を相対化し、広い視野から他者と協働できる
6. 学んだことや考察した結果を適切な手段によつて的確に表現することができる

カリキュラムマップ

学科目	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号*					
		①	②	③	④	⑤	⑥
ファッションディスプレイ 実習	1. ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる		△		○		
	2. ディスプレイマネキンに対して、ピンワークによる服飾デザインの応用立体表現ができる。				○		◎
	3. ディスプレイマネキンおよび人体に対して、ピンワークによる服飾デザインの創作立体表現ができる。				○		◎

教員による到達目標達成度評価

学生証番号	到達目標1	到達目標2	到達目標3
10L991	5	3	4
10L992	2	3	3
10L993	4	1	2

学生による到達目標達成度評価(達成感ポートフォリオ)

ファッションディスプレイ演習 担当: ○○

到達目標1
ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる

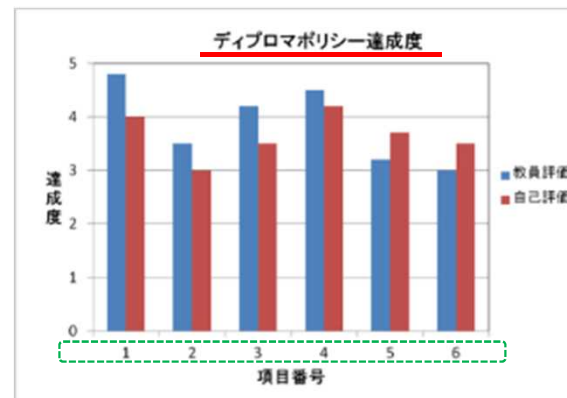
達成率
100% ● 80% ● 60% ● 40% ● 20% ● 0%

自己評価の理由を200字程度で書いてください

到達目標2

総合的評価提示システムの一部

科目名	評価	
ファッションディスプレイ演習	92	
到達目標	評価	自己評価
1. 基礎立体表現ができる	5	4
2. 応用立体表現ができる	3	1
3. 創作立体表現ができる	4	5



*ミドルレベル・ディプロマポリシーは省略

総合的評価提示システムの画面イメージ

到達目標の入力

シラバスで記入したものと同一到達目標をnavi(本学ポータルサイト)で入力

カリキュラムマップ科目一覧 > 科目到達目標

2015年度 100100 ファッションディスプレイ実習

No.	科目の到達目標
1	ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる。
2	ディスプレイマネキンに対して、ピンワークによる服飾デザインの応用立体表現ができる。
3	ディスプレイマネキン及び人体に対して、ピンワークによる服飾デザインの創作立体表現ができる。

戻る

コピー

行追加

確定

総合的評価提示システムの画面イメージ

カリキュラムマップの設定

科目の到達目標とミドルレベルディプロマポリシーの関連度をnaviで入力

*これまでディプロマポリシーとの関連度を入力していたが、今後はミドルレベルディプロマポリシーとの関連度を入力

戻る

■ カリキュラムマップ科目一覧 > カリキュラムマップ設定

2015年度 100100 ファッションディスプレイ実習

ライフデザイン学科 分野:ファッション

ミドルレベルディプロマポリシー						
①	時代ごとに変遷するファッションについて専門的な知識を身につけて、広い知識でコミュニケーションを行えるようにする。					
②	現代ファッションを理解して、アドバイザー的な位置にたどり着く。					
③	...					
...						

凡例 ◎:DP達成のために特に重要な目標
 ○:DP達成のために重要な目標
 △:DP達成のために望ましい目標

科目の到達目標	①	②	③	④	⑤	⑥
1.ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる。	▽	△	▽	○	▽	▽
2.ディスプレイマネキンに対して、ピンワークによる服飾デザインの応用立体表現ができる。	▽	▽	▽	○	▽	◎
3.ディスプレイマネキン及び人体に対して、ピンワークによる服飾デザインの創作立体表現ができる。	▽	▽	▽	○	▽	◎

確定

総合的評価提示システムの画面イメージ

到達目標の達成度入力

* 成績入力時に、素点だけでなく、各到達目標の達成度も入力

採点授業一覧>採点登録>到達目標登録

戻る

2015年度 前期

100100 ファッションディスプレイ演習 定期試験(登録期間内)

項目	科目の到達目標
1	1.ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる。
2	2.ディスプレイマネキンに対して、ピンワークによる服飾デザインの応用立体表現ができる。
3	3.ディスプレイマネキン及び人体に対して、ピンワークによる服飾デザインの創作立体表現ができる。

学籍番号	学生氏名	素点	評価	項目	達成度評価
031A--0024	スズキタロウ 鈴木太郎	90	S	1	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○
				2	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○
				3	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○
061B--0002	カタオカ タツロウ 片岡 達郎	80	A	1	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○
				2	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○
				3	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○
	キヨハラ ミノル			1	未◎ 1○ 2○ 3○ 4○ 5○

総合的評価提示システムの画面イメージ

学生による到達目標達成度の自己評価

* 学生は、教員が成績評価をしている同じ時期に、科目の到達目標達成度の自己評価を行う。

達成感ポートフォリオ

ファッションディスプレイ演習

到達目標 1

1. ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク（ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術）による服飾デザインの基礎立体表現ができる。

達成度自己評価（必須）

100% 75% 50% 25% 0%

自己評価の理由を200字程度で書いてください。

到達目標 2

総合的評価提示システムの画面イメージ

学生への成績提示

- ・成績だけでなく到達目標の達成度評価も提示
- ・教員評価と自己評価が並列表示

* 甘口度:[自己評価]
>[教員評価]となっている到達目標に限定して、[自己評価]－[教員評価]の和をとる

* 辛口度:[教員評価]
>[自己評価]となっている到達目標に限定して、[教員評価]－[自己評価]の和をとる

戻る

1. 到達目標の達成度表示

学科目	成績	科目の到達目標	自己評価	教員評価	甘口度	辛口度
英語 I	B	英語のさまざまな品詞の概念・意味を説明できる	3	4	4	1
		英語の品詞と英語の文法との間の関係を説明できる	5	3		
		英作文をReading・Writing・発表できる	4	2		
英語 II	A	英語の文法・作文・Reading・Speakingを向上させる	3	4	0	4
		英文法の理解・英語語彙の知識を向上させる	2	4		
		英作文を勉強させる(自己紹介書・話・物語の要約)・発表・Readingを向上させる	3	4		

総合的評価提示システムの画面イメージ

ディプロマポリシー／ミドルレベルディプロマポリシーの達成度評価

- ・達成度が花の完成度で表示(下に数値も表示)
- ・教員評価と自己評価が並列
- ・分野のボタンを押すと、分野のミドルレベルディプロマポリシーの達成度が表示される

◆全体

◆スタンダード

◆プロフェッショナル

全分野対象

語学	XXXXXX	XXXXXX	XXXXXX	XXXXXX
XXXXXX	XXXXXX	XXXXXX	XXXXXX	XXXXXX
ファッション	ブライダル	フード	インテリア	デザイン企画
エンターテイメント	観光	医療秘書		

ディプロマポリシー	
①	知識・理解: カリキュラムの多面的な履修を通して、豊かな人間形成をおこない、幅広く深い現代的教養を身につける。
②	思考・判断: 体系的な学習を通して、現代の多様な課題を見つけ、問題を解決する判断力を身につける。
③	関心・意欲: 自らの人生の目標に向かって努力し、実践できる人材となる。
...	
⑬	関心・意欲: 自らの人生の目標に向かって努力し、実践できる人材となる。

	ディプロマポリシー①	ディプロマポリシー②	ディプロマポリシー③
自己評価	4.8	4.2	0.0
教員評価	4.7	4.2	3.1

あなたへの
 まだまだ、
 力を怠らず

プレディプロマ・サプリメント

1年1組 18L001

光華 花子

取得単位 00.0 単位

うち必修科目 取得単位 00.0 単位

GPA 00.0

ディプロマ・ポリシー達成度評価



□ミドルレベル・ディプロマ・ポリシーの達成度評価（累積）

ミドルレベル・ディプロマ・ポリシー設定の観点		
ココロ	分野での思いやりの心について	
	分野の学びの意欲について（楽しみ・喜びを含む）	
教養	分野の文化的側面	
	分野の産業的、あるいは社会的側面	
人材	分野の専門性にもなう知識、技術、感性について	
	分野に関係の深い社会人基礎力の特定の要素の育成	
ライフデザイン		自己評価
ココロ	建学の精神に通じる思いやりの心を身につける	
	学びの基礎の学習を通して、学びの楽しさを理解する	
教養	生涯にわたり、自ら持続的に学ぶ姿勢を身につける	
	現実の中に問題を見つけ、自ら答えを見つける姿勢を身につける	
人材	能動的な学びを通じて、チームの一員として活動することができる	
	学んだ手法を社会の様々な局面で活かせる応用力・展開力を身につける	

総合的評価提示システムの画面イメージ

教員出力画面

達成度照会授業一覧>科目達成度照会

戻る

2016年度 前期

T1067 情報処理概論

↓画面下へ

No.	科目の到達目標
1	コンピュータの5大機能と対応する装置を説明できる。
2	数値や文字のデジタル化のしくみについて理解できる。
3	OSやプログラミング言語の役割や他のソフトウェアとの関係を理解できる。

1. 担当科目

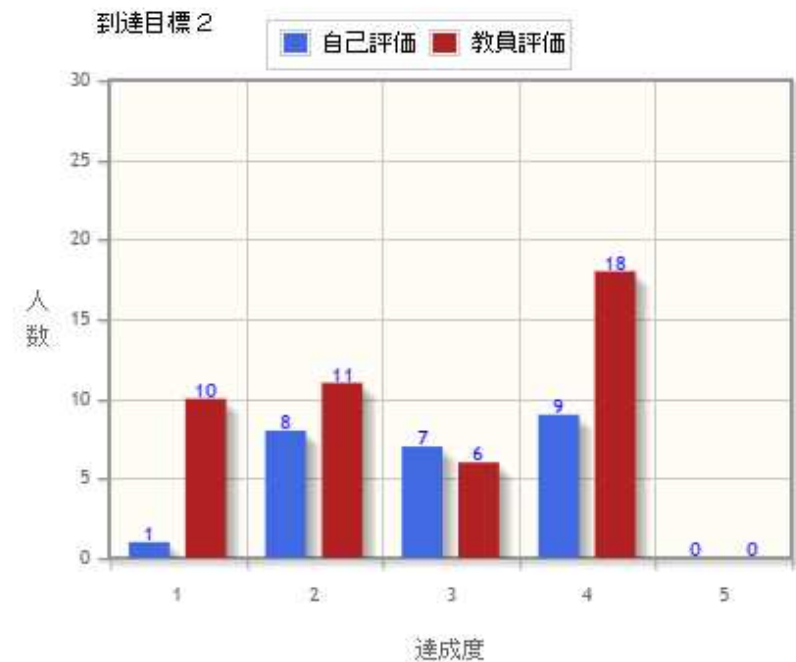
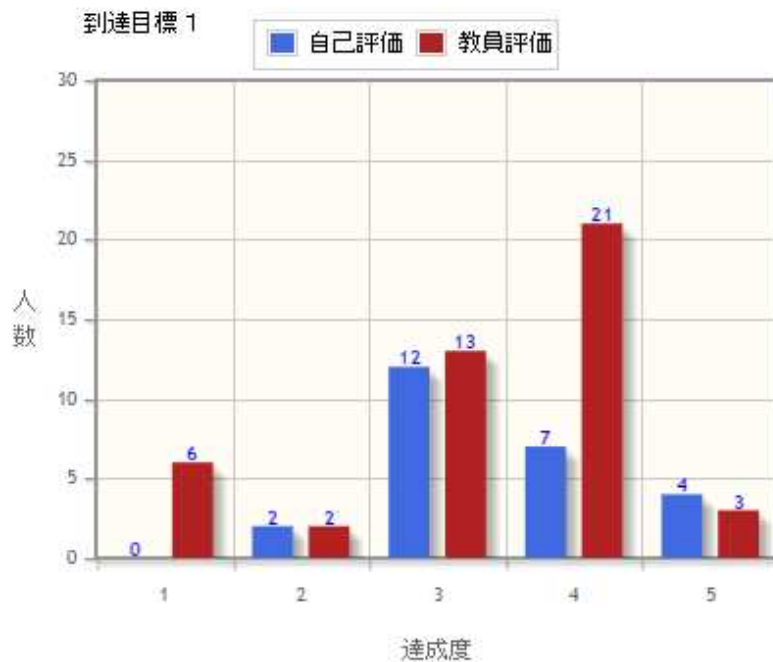
学籍番号	学生氏名	素点	評価	到達目標	自己評価	教員評価	甘口度	辛口度
[Redacted]	[Redacted]	60	C	1	3	4	1	1
				2	3	3		
				3	3	2		
[Redacted]	[Redacted]	60	C	1	3	1	3	0
				2	3	3		
				3	4	3		

総合的評価提示システムの画面イメージ

教員出力画面

到達目標の
達成度がヒ
ストグラムで
表示

2. 到達目標ごとの達成度の表示



総合的評価提示システムの画面イメージ

教員出力画面

■ デイプロマポリシー照会

2016 年度 ライフデザイン学科 ▼

検索

1. デイプロマポリシー全体

↓ 画面下へ

デイプロマポリシー	
①	思いやりの心を持って、学びの意欲を高め感性を磨く
②	広い視野と将来の見通しを持って社会とかわかり、21世紀の教養を身につける
③	多様な知識や技術を身につけ、社会に生きる人材になる

項目/レベル	1		2		3		4		5	
	自己評価	教員評価	自己評価	教員評価	自己評価	教員評価	自己評価	教員評価	自己評価	教員評価
デイプロマポリシー①										
デイプロマポリシー②										
デイプロマポリシー③										

2. ミドルレベルデイプロマポリシー

分野: ライフデザイン

DPNo	ミドルレベルデイプロマポリシー	
①	①	学びの基礎の学習を通して、学びの楽しさを知る
	②	建学の精神に通じる思いやりの心を学ぶ

到達目標・評価体系改善のためのデータの活用

到達目標体系・評価体系の妥当性の検討

ディプロマポリシーの各項目が独立した目標・評価基準として機能しているか？

(検証結果)

DP1(こころ)、DP2(教養)、DP3(人材)それぞれの達成度の相関が高すぎる

(要因)

①MDPの設定の問題

MDPの各項目がDPと明確な対応関係を持たず、1つのMDPにDPの複数の要素が混合されている→**観点の整理**

②カリキュラムマップの設定の問題

科目の1つの到達目標が、関連するMDPを厳選せず、多数のMDPと関連付けられている→**関連付けの厳選**

③科目の到達目標の達成度評価の適切性の問題→**今後の課題**

評価システムの客観性・妥当性の検証

ディプロマ・ポリシーの各項目が独立した目標・評価基準として機能しているか？

使用データ

・ DP達成度（教員評価）（2016年度後期）

結果

DP1(こころ)、DP2(教養)、DP3(人材)それぞれの達成度の相関が高い

	DP1(こころ)	DP2(教養)	DP3(人材)
1	-	.78 *	81 *
2	-	-	81 *

ミドルレベルディプロマポリシーの改良

ブライダル分野

区分	ディプロマポリシー	観点	ミドルレベルディプロマポリシー
DP1 こころ	思いやりの心を持って、学びの意欲を高めることができる	(1)分野での思いやりの心 (2)分野での学びの意欲・喜び	(1-1)結婚式に関わるあらゆる人たちとのつながりを大切にし、結婚式に込められた思いに共感できる (1-2)ブライダルプロデュースを通じて、新郎新婦をサポートする喜びを知ることができる
DP2 教養	21世紀の教養を身につけ、広い視野と将来の見通しを持って社会とかがかわることができる	(1)分野の文化的側面 (2)分野の産業的・社会的側面	(2-1)婚礼の歴史と慣習について理解する (2-2)21世紀におけるブライダルビジネスの課題を理解し、これからの可能性を考えることができる
DP3 人材	社会に生きる人材として、多様な知識や技術、感性を身につける	(1)分野の専門性に伴う知識、技術、感性 (2)分野に関係の深い社会人基礎力の特定の要素の育成	(3-1)人生の一大イベントである結婚式をプロデュースするための知識と技術を身につける (3-2)ブライダルビジネスで必要とされるコミュニケーション能力、企画提案力を身につける

科目の到達目標の指針

指針

1. 目標の主語が学生になっている
2. 評価可能な目標になっている
3. 1文に1つの目標を記述している
4. 評価の際の条件を具体的に明示している
5. 目標のレベルが適切である

例(食品と調理)

旧

1. 食品の特性を理解する
2. 食品の加工・調理方法の基本を理解する
3. 食品の特性と調理方法の知識を実際の調理に活かすことができる

新

1. 食品の特性(成分・機能・調理による変化)を説明できる
2. 食品の加工・調理方法(焼く・煮る・揚げる・蒸す)の基本を説明できる
3. 食品の特性と調理方法の知識をもとに実際にどのような調理がよいか説明できる

外部の社会人基礎力テスト

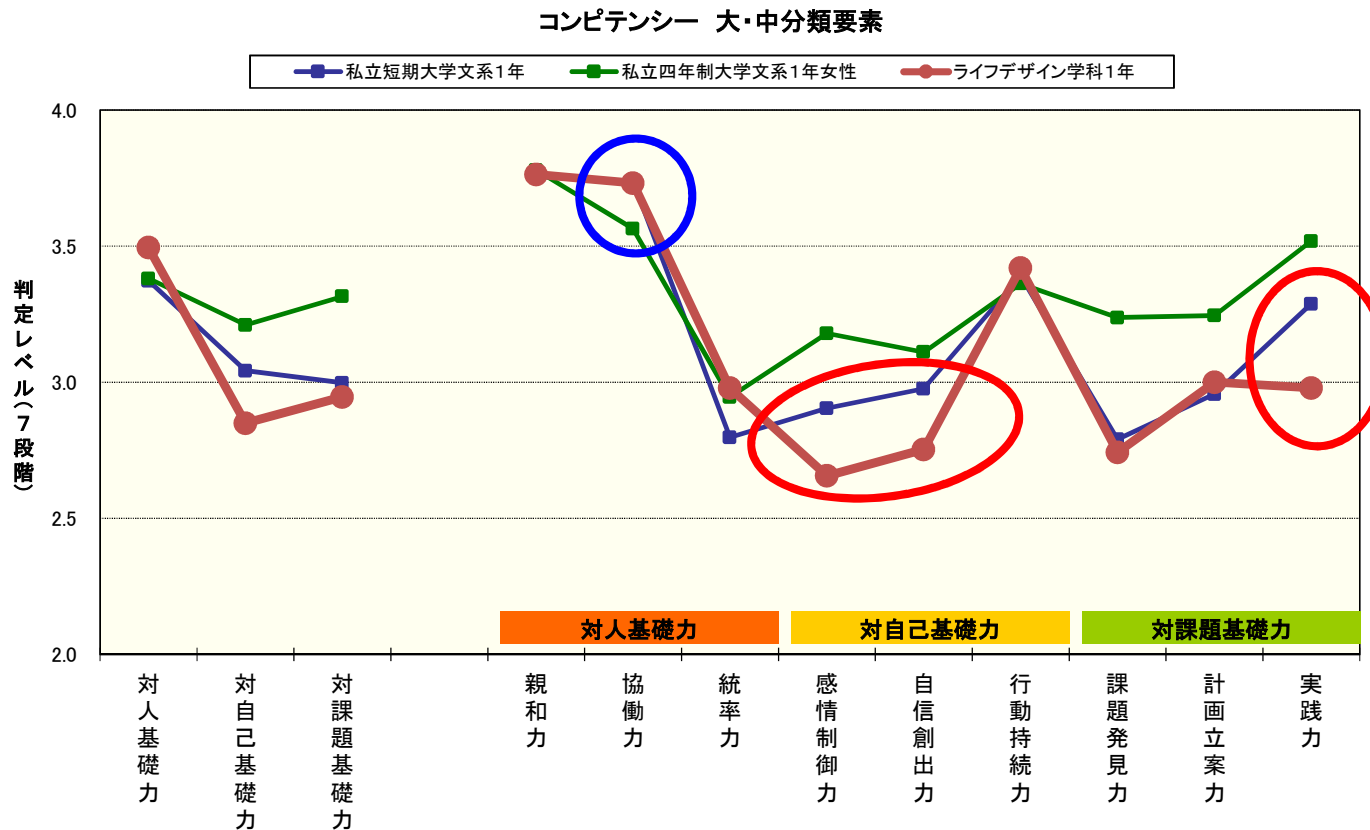
1. ディプロマ・ポリシーによる評価の客観性の確認
ディプロマポリシー達成度との相関分析
2. 社会人基礎力育成のための方針作成に利用
多くの内部指標との相関分析
3. 学生へ「何を行うべきか」の指針の提供
学生への結果のフィードバック



1, 2, 3の観点からリアセック社の「PROG」を採用

PROGテスト結果より、本学の学生の特徴

- ・2014年度のPROGテストの結果から、本学の学生は全国の短大生や女子学生に比べ、「**協働力**」が高い学生が多い。
- ・一方、「**自信創出力**」や「**感情制御力**」、「**実践力**」が低い学生が多い。



社会人基礎力テストの結果の分析を 社会人基礎力育成の方針作成へ利用

- ・ PROGテストの結果(全国の短大生・女子大生との比較)より確認された学生の強み(協働力)を伸ばし、弱み(自信創出力、感情制御力)を強化したい
- ・ 「協働力」、「自信創出力」、「感情制御力」が高い学生は、高校時代、グループで自分の意見を述べたり、多くの人前でプレゼンをしたり、新たな企画を考えたりした経験が多い
- ・ 一方、本学の学生には、高校時代にプレゼン、企画考察を経験した学生が比較的少ない



仮説: 「協働力」、「自信創出力」、「感情制御力」を高めるためには、プレゼン、新企画の提案の取組が効果的



仮説の検証: 相関の有無から因果関係の方向性の同定へ
ex. 「協働力」等の今後の伸びとその間のさまざまなアクティブラーニングの体験との相関

「協働力」、「自信創出力」、「感情制御力」を高めるため、必修科目の中に、プレゼン、新企画の提案の要素を取り込む

cf. 「プレゼンテーション演習」①プレゼンと企画立案の統合、②徹底した課題のリアルさの追求、③本格的なプレゼン大会

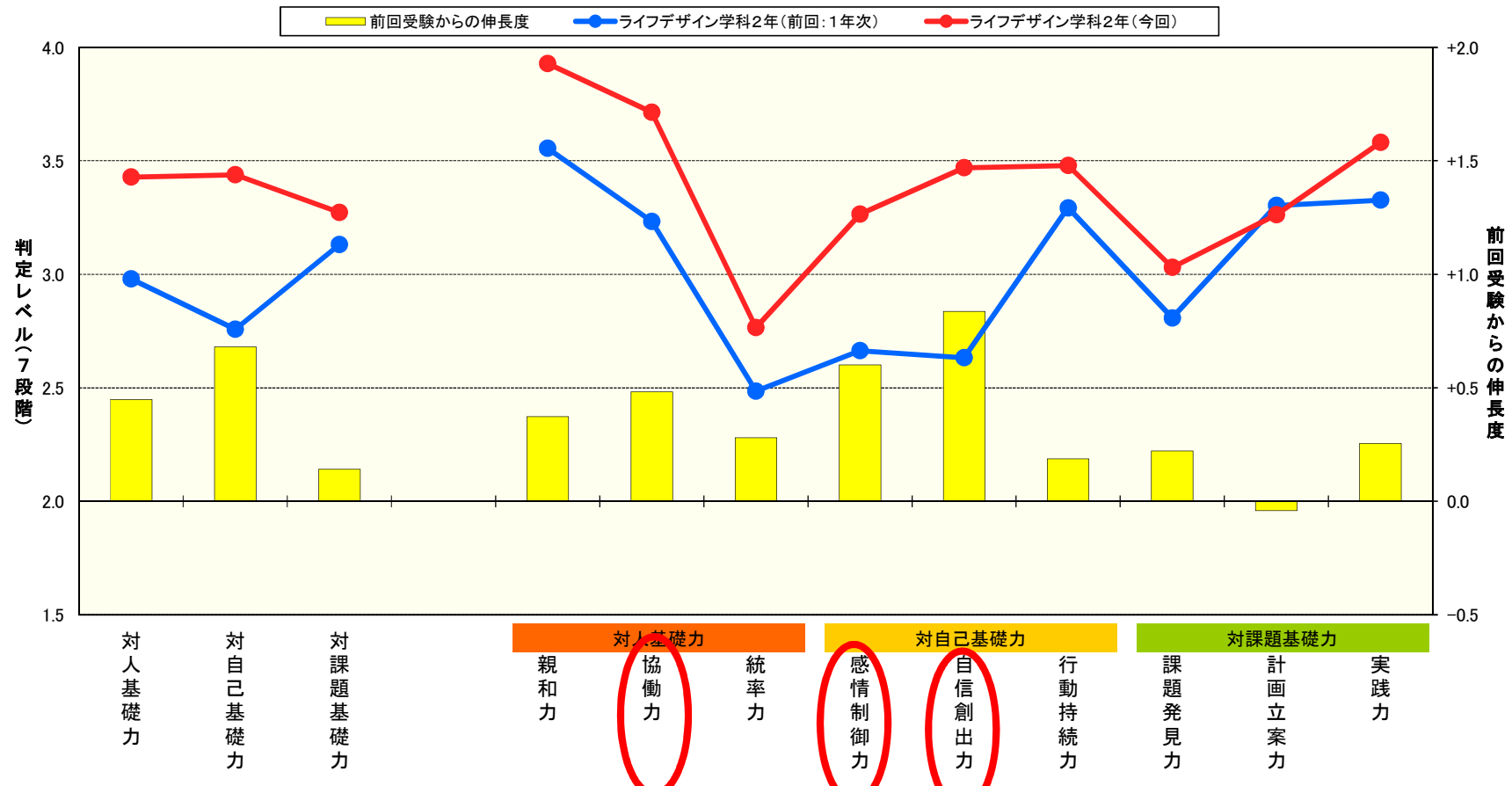
PROGテストによる結果分析

2015年度生（1年入学時点と2年前期終了時点での比較）

強みの「協働力」はさらに伸長

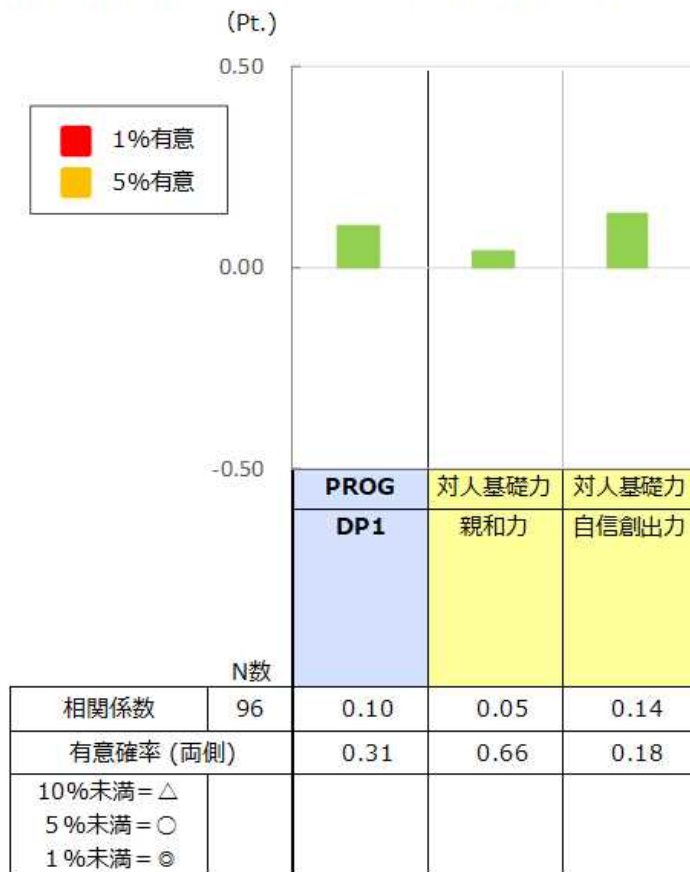
弱みの「自信創出力」と「感情制御力」は強みに変容

= 2年間での学びを通じた成長！



PROGとディプロマポリシーの達成度の相関

【DP1】教員評価とPROG（今回：2年次）との相関



- ・ディプロマポリシーの達成度と関連するPROGテストの結果はほぼ無相関
- ・ディプロマポリシーの各項目が独立した目標・評価基準として機能していない現状では妥当な結果
- ・改良した目標・評価体系でどうなるかが今後の課題

評価システムの客観性・妥当性の検証

(2) DP達成度とPROGの相関を確認

方法

DP1～3のそれぞれに対応するPROGの能力項目のスコアの平均を算出し、DP達成度(教員評価)との相関係数を確認

結果

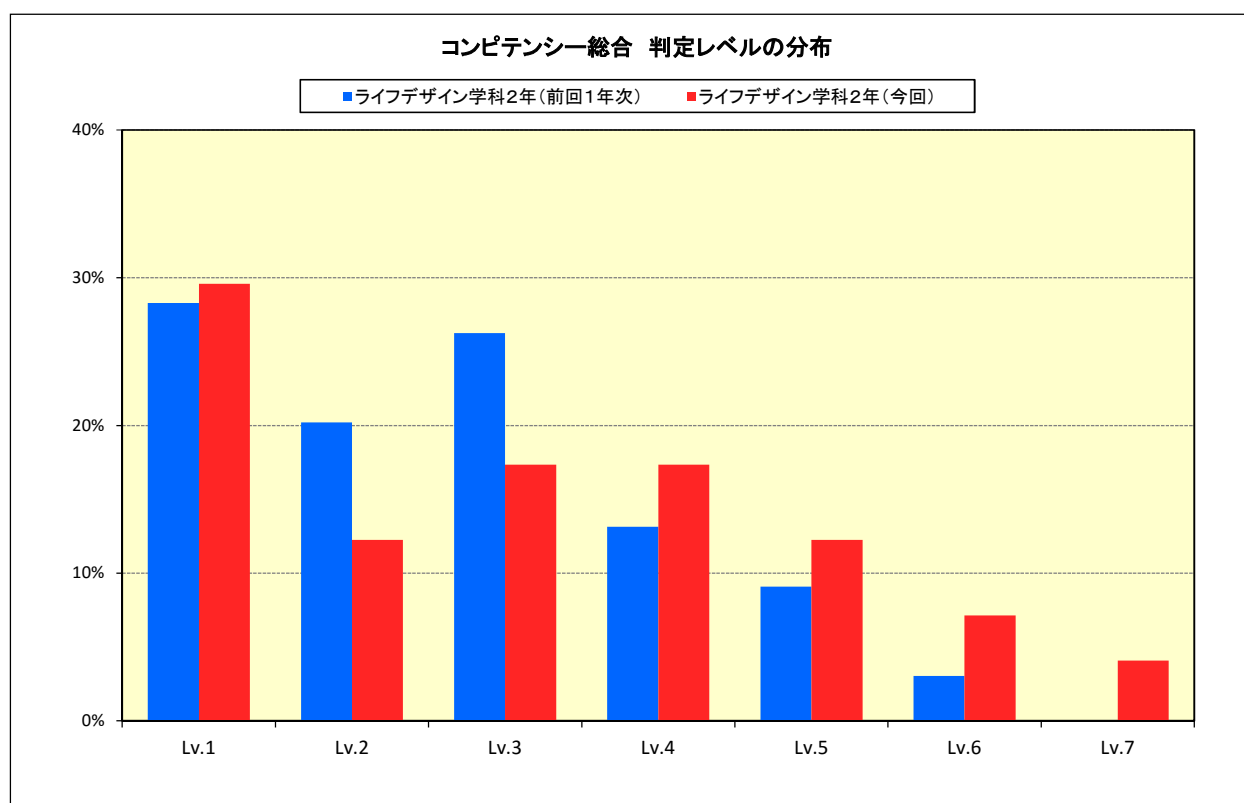
- ・ DP1(こころ)とPROG(対人基礎力)
弱い負の相関がみられた($r=-.28, p<.05$)
 - ・ DP2(教養)とPROG(リテラシー総合)
弱い相関が見られた($r=.40, p<.01$)
 - ・ DP3(人材)とPROG(対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力)
相関は見られなかった
- ↓
- ・ DP達成度の評価は、客観性・妥当性に乏しい
 - ・ ディプロマ・ポリシーの各項目が独立した目標・評価基準として機能していない現状では妥当な結果

PROGの結果から見る学生の成長

2016年度入学生

1年次と2年次の比較

レベル1に滞留する学生が3割程度存在する



教育改善の具体的な方法の検討

レベル1の学生の成長には、どのような教育や環境が必要か？



入学時にレベル1の学生にインタビュー

- ・行動特性(コンピテンシースコア)の変化のきっかけ
- ・大学に入学してよかったこと／改善してほしいこと



成長要因の仮説の検討



教育改善へ

レベル1の学生の成長に必要な環境(仮説)

- ・安心、安全な環境
- ・逃げられない強制的な環境
- ・先輩、OG、同じレベルの学生に相談できる環境



具体的かつ明確な指示を与え、とにかく行動させ、スモールステップで成功体験を積み上げる

卒業生インタビュー

- ・2015年年2月インタビュー試行(卒業後3~5年5名、グループ討論、インタビュアー:第三者(リアセック))
- ・2015年11月インタビュー本実施

ヒアリング内容

- ①仕事をする上で大事な能力は？
- ②大学で勉強したことで役に立っている経験は？
- ③社会人基礎力を伸ばすのに役立った授業や経験は？

「**プレゼンテーション**」の授業。先生がテーマを決めて、プレゼンして、上手くいけば企業の人とコラボして、という授業。プレゼンは個人的には好きだが、人前でしゃべるなど考えてもなかった。大変な授業だった。授業に行ったら、急に「1分間しゃべれ」と言われ、授業を受けている何十人の前に立たされて、「1分間、自分の好きなことをしゃべれ」とか言われるので、「今日の授業は何を言わされるのか」、いつもドキドキしていた。

授業のおかげで、会社でもプレゼンをする機会があるが、人前に出たり、目上の人としゃべるのも出来るようになった。

→プレゼンテーション演習を中心とするアクティブ・ラーニングの効果

企業インタビュー

- ・2016年11月インタビュー実施(6社、インタビュアー:第三者(リアセック))

インタビュー内容

- ①短大卒人材のキャリアパス
- ②新卒採用時に重視する能力及びその評価方法
- ③短大生の印象、評価と短大に期待する教育内容

結果

- 「親和力」「協働力」「実践力」は企業から求められており、短大生に対する評価も高い
→アクティブ・ラーニングの効果
- 「計画立案力」「専門性」「資格」は短大生に対する評価は低いが、企業も求めている
- 「課題発見力」と「論理的思考力」は企業から求められているが、短大生に対する評価は低い
→今後の教育の課題

学修成果の可視化の取組から得られた知見・ノウハウ

①自学にとって最も重要で、かつ、評価可能な目標を定め、その達成度を明確な手続きで数値化

- ・最も重要な目標を可視化の第1の指標にすべき
- ・「もっとも重要な目標の達成度の評価」自体が「学修成果の可視化」の1つの目的

②DPも目標となり得る

- ・DPは抽象的過ぎて可視化の指標にはなりえない？
→本学で開発した分析的評価法を用いれば、どの大学もDP自体を目標にすることが可能
- ・DPを評価対象としての目標とすることにより、目標体系と評価体系がより一層首尾一貫

③複数の分野から構成されている学科ではDPを分野ごとの目標に具体化することも検討

- ・多様な分野から構成されている学科では、分野ごとにDPを展開した到達目標(ミドルレベルDP)を設定
- ・MDPを展開して科目の到達目標を設定
- ・最終的に、DP→MDP→科目の到達目標という階層的到達目標の体系

学修成果の可視化の取組から得られた知見・ノウハウ

④科目の到達目標の達成度を評価し、それを積み上げてDPの達成度を評価

- ・評価法としては、外部テストの導入等も考えられる→授業の重要性を考えると、授業の成果を評価に取り入れることをまずは検討すべき
- ・その際、本学では、科目の成績の素点ではなく科目の到達目標の達成度を採用
→「何ができるようになったか」に直接答えているのは、科目の到達目標の達成度だから
- ・いったん科目の到達目標の達成度が数値化されたら、それらを、カリキュラムマップを媒介にしてMDP、DPの達成度へと集約
- ・こうしてDPの達成度が可視化

⑤目標の各項目の独立度を目標体系・評価体系の妥当性の指標として利用

- ・一旦作成した目標体系・評価体系の妥当性を検証し、PDCAを回すことは難しい課題
- ・本学では、妥当性の基準として、「DPの各項目が一定独立した目標・評価基準として機能していること」ということを設定
- ・本学ではこの基準に従い、毎年、目標体系・評価体系の見直しを行っている

学修成果の可視化を学生のものとするために

学生の主体的な学習へとつなげる仕組みの構築

- ・到達目標体系が多様な動機をもって入学した学生にとって、**自分の外の世界**
- ・総合的評価提示システムにより豊富なデータが提供されても、それだけでは**学生の主体的なふりかえりには結びつかない**

(対策)

- ・学生自身が明確な目標を持つ
- ・その目標を到達目標体系とリンクした目標(「深い目標」)へと高める

(計画)

- ・学生と教員が一緒になって行う目標設定・ふりかえりの作業を制度化
- ・オリエンテーション、必修授業、個別面談での指導の強化

目標設定シート

1年前期目標設定シート

学生証番号

氏名

ライフデザイン学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

- DP1 思いやりの心を持って、学びの意欲を高めることができる
- DP2 21世紀の教養を身につけ、広い視野と将来の見通しを持って社会とかがかわることができる
- DP3 社会に生きる人材として、多様な知識や技術、感性を身につける

	生活に関連すること	学習に関連すること	資格に関連すること
1年前期の目標	映画を週一見る	パソコンの授業を速くこなすようにする 5分間を800字	ふたつ以上の検定
※目標は漠然と「～したい」「～する」ではなく、「△△できるようにする」「〇〇という資格を取る」という前期が終わった段階で評価できる具体的な目標を設定すること。			

（その月単位の考え）	5月 英語	毎日練習 5回	授業を しっかりと受ける
	6月 韓国		
	7月 日本		
※「がんばる」「勉強する」とかではなく、「5月は〇〇をする」「6月は△△をする」という形で、具体的な目標達成までのステップを設定すること。			
DPとの対応	(DP1)・DP2・(DP3) 感性が育つ	(DP1)・DP2・(DP3) 将来の仕事に役立つ	(DP1)・DP2・DP3 人を思いやる
※自分の設定した目標が、3つのうちのどのDPと対応しているかを考えて、1つを選ぶこと。そのうえで、その目標を達成することが、どのようにDPの達成と関係しているかを書くこと。			

ふりかえりシート

1年前期ふりかえりシート 学生証番号 氏名

	生活に関連すること	学習に関連すること	資格に関連すること
目標達成の 自己評価	5. 完全に達成できた ④. かなり達成できた 3. まあまあ達成できた 2. 少しだけ達成できた 1. あまり達成できなかった	5. 完全に達成できた ④. かなり達成できた 3. まあまあ達成できた 2. 少しだけ達成できた 1. あまり達成できなかった	5. 完全に達成できた 4. かなり達成できた ③. まあまあ達成できた 2. 少しだけ達成できた 1. あまり達成できなかった
評価の理由	映画を見ることによつていろいろな考え方ができるようになったと思ふから。	毎日練習あることによつて、少しづつ結果が見えてきたから。	T=11T=11のことほ理解できるから。

目標達成の ため した かん ばつ て みて	映画を見ることによつて携帯をさわる時間を減らした。一石二鳥だと思ふ。本を読むことにも興味が出てきた。本と映画でちょっと感性を豊かにした。	毎日やることによつて習慣化した。このことから継続してみよう。	あつたし検定本番に向けて勉強を続けようと思ふ。
--	--	--------------------------------	-------------------------

DP達成度評価のさらなる展開

重層的な学修成果の可視化システムの構築へ

- 分析的評価法の構築(=総合的評価提示システム)

DPを科目の到達目標へと分解



科目到達目標の達成度をDP達成度へと総合

- 直接的評価法の構築

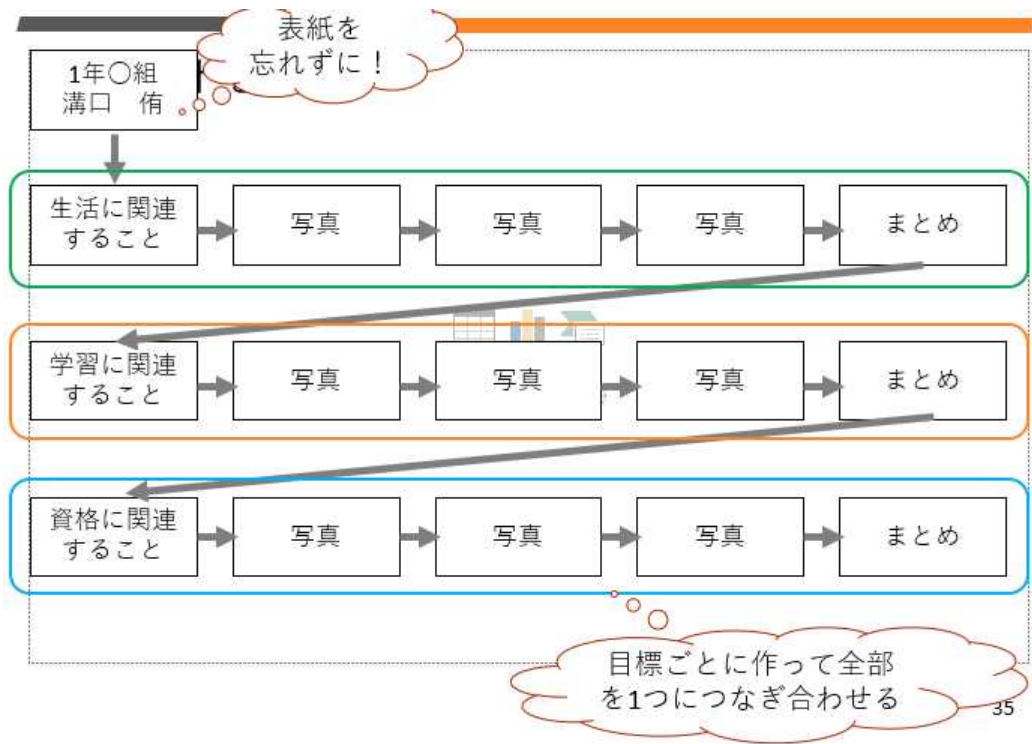
- DPを要素に分解せず、全体としてその質を評価する仕組みを構築
- 各科目の課題、目標設定シート、ふりかえりシートとも連動させる



ロイロノートを用いたポートフォリオ

ロイロノートを用いたポートフォリオ

- ① 目標を達成した証拠となる写真をたくさん集める
- ② 目標のシート、証拠の写真のシート(5枚以上)、ふりかえりのシート(目標達成度の自己評価)をつないで発表用資料を作成



・ロイロノートとは
ロイロノートスクールとは、タブレット向けの教育支援アプリ
→エビデンスの蓄積、スライドの作成が簡単に行えるため、ポートフォリオ実現のアプリのとして採用

ロイロノートを用いたポートフォリオ

- ③グループで発表
- ④友人の発表を聞いてピア評価
- ⑤発表をもとに、「ふりかえりシート（紙）」記入
- ⑥教員もポートフォリオを見て評価



学生証番号 [] 名前 []

ピア評価シート

同じグループの人の発表を聞いて、評価しましょう。

①「学び」の証拠として十分か、②「学び」の説明は十分か、の2つの観点をそれぞれ「1.十分でない」「2.あまり十分でない」「3.どちらともいえない」「4.やや十分」「5.十分」の5点満点で評価してください。

第1回グループ

メンバーの名前 []

評価の観点	点数	評価の理由
①「学び」の証拠として十分か ※集めてきた写真や動画は、目標を達成したことを示す証拠として十分なものであったか？	1 2 ③ 4 5	「遅刻をしてよい」という目標がアラムをかけたいる写真があるから。
②「学び」の説明は十分か ※集めてきた写真や動画を使った説明は、目標を達成したことを示す証拠として十分なものであったか？	1 2 3 4 ⑤	一枚一枚の写真に2いいよ説明が加えられていいから。

ロイロノートを用いたポートフォリオ

1年1組

学習に関連すること
「タイピング毎日練習」

DP3との関連
「将来の仕事に役立つ」



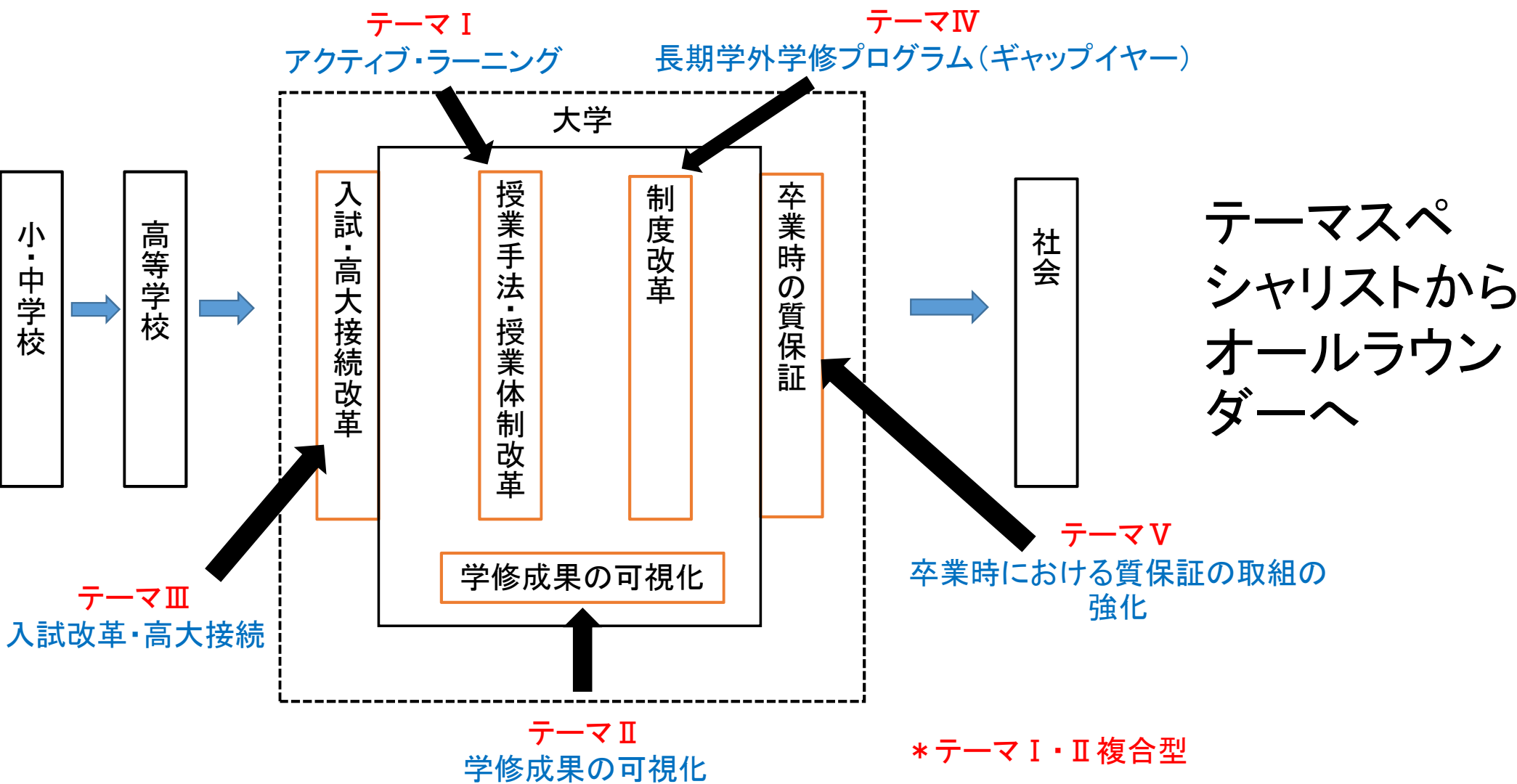
目標の達成度 4/5
頑張れたこと
「毎日続けることができた」
頑張れなかったこと
「1日3回しかできなかった」

(感想)

自分が頑張ったことを他の人に説明するのは
少し楽しかった。自分の努力を他の人に認められるのは
すごく嬉しかった。これからも続けていきたいと思います。

<https://scrapbox.io/loilo-teacher-support/ロイロで学びのポートフォリオ作成>

高大接続改革へ



全国的な協力関係

- 全国の短大と共有し、課題解決！

短大フォーラムの開催

主催：愛知文教女子短期大学、香蘭女子短期大学、
松本大学松商短期大学部、京都光華女子大学短期大学部

第1回：テーマ「蓄」 2017年3月9日（木）、10日（金）本学で開催

第2回：テーマ「つながり」

2018年2月27日（火）、28日（水）松本大学松商短期大学部で開催！

第3回：テーマ「輝（かがやき）」

2019年3月4日（月）、5日（火）愛知文教女子短期大学で開催

第4回：テーマ「ミライ」

2019年9月6日（金）、7日（土）香蘭女子短期大学で開催

- 全国の大学と協働し、学生のアクティビティを強化！

学生FDサミットへの参加：2018年夏は、本学で開催

- 総合的教育改革を前進！（AP幹事校として）

AP全テーマ合同報告会を全国で展開


APの成果を集約したホームページ「APアーカイブ」の作成

AP全体報告会の開催

AP幹事校として 全国的な協力関係

全テーマ・全選定校の取組の成果の積極的な発信・普及を促進するために、「APについての全ての情報を網羅したアーカイブ」としてのウェブサイトを設置 <https://www.ap-archive.jp/>

→2020年度以降本学に移行



大学教育円滑化プログラム (AP) アーカイブ

大学教育円滑化プログラム (AP) について

大学教育円滑化プログラム (AP) は、国として初めて大学教育を一元化する。先行的な取組を実施する大学を支援する、文科省の大学教育円滑化プログラムです。5つのテーマが設定される中で本学の取組に関する取組77件が採択されています。各テーマ・成果などの取組の成果の積極的な発信・普及を促進するため、「APについての全ての情報を網羅したアーカイブ」としてのウェブサイトを設置することしました。それが「大学教育円滑化プログラム (AP) アーカイブ」です。

各テーマのポータルサイト

テーマ1 アクティブ・ラーニング WEBサイトを見る	テーマ2 学修成果の可視化 WEBサイトを見る	テーマ1・2複合型 アクティブ・ラーニング 学修成果の可視化 WEBサイトを見る
テーマ3 入試改革・高大接続 WEBサイトを見る	テーマ4 長期学修プログラム (ギャップイヤー) WEBサイトを見る	テーマ5 卒業時における 質保証の取組の強化 WEBサイトを見る

TOP
大学教育円滑化プログラム (AP) アーカイブとは？
APの沿革の経緯

Copyright © ap-archive All Right Reserved.

AP全体報告会

開催日時及び会場

日程: 2020年3月5日(木)、6日(金)

会場: 武蔵野大学有明キャンパス



コロナ禍で中止⇒
バーチャル報告会へ

プログラム概要

◆AP選定校の成果報告

選定校によるAP事業の成果報告。報告には、教職員に加え学生も参加

◆学生によるパネルディスカッション

パネリストとして学生が登壇。AP事業を通しての学生の学びや経験についてディスカッション。

◆参加者全員によるしゃべり場

大学教職員や学生に加え、様々な参加者が入り混じって小グループを作り、大学について語り合う

APバーチャル全体報告会

<https://ap-archive.jp/ap-forum>

The screenshot shows the website for the AP Virtual All-Hands Meeting. At the top, there is a navigation bar with the following items: 大学教育再生加速プログラム (AP) アーカイブ, AP全体報告会, 大学教育再生加速プログラム (AP) アーカイブとは?, APの基礎的情報, 各テーマ概要, 選定校の一覧, and APキーワード. Below the navigation bar, the main heading is 'AP全体報告会' with a breadcrumb trail 'TOP > 大学教育再生加速プログラム (AP) 全体報告会'. A section titled 'AP全体報告会とは' provides an overview of the event. Below this, there is a menu with five items: 口頭発表, ポスター発表, 学生インタビュー, ポストAP宣言, and APのビデオパッケージ. The '口頭発表' (Oral Presentation) section is currently selected and expanded, showing a list of presentations under the theme 'アクティブ・ラーニング'. The list includes presentations from 明石工業高等専門学校, 崇城大学, and 福岡工業大学, each with links for '要旨集' (Abstract Collection) and '発表資料' (Presentation Materials). A 'ビデオ' (Video) link is also visible at the bottom of the list.

- 口頭発表 : 19校
- ポスター発表 : 47校
- 学生インタビュー(オンライン)
- ポストAP宣言
- 映像で振り返るAP